

談話室

わが大学の思い出—千葉工業大学—

長谷川 豊 文*

私の学んだ千葉工大は、千葉県の習志野にある。このあたり一帯は、藁草として知られる龍胆の繁殖地であり、夏の終わり清楚な青紫色の花をよく目にした。現在でこそ当地は、東京の近郊住宅地として発展を遂げているが、私の在籍した昭和40年前半は、まだまだ田畑の中に住居が極まれに散見される田舎町であつた。校舎も本館、実験棟等主要な建物を除く部室、食堂などは、かなり老朽化した木造の建屋であつた。決して恵まれた環境下での学生生活ではなかつたが、私にとってこの4年間は、いかに有意義で実り多い時期であつたかを、今、あらためて思い起こしている。

私は、入学と同時に自動車部へ入部した。授業で学んだことが、より身についたものとなつたのは、自動車部の整備解体を通してであつたように思う。部には、乗用車、トラック、バス等合わせて6~7台あつたように記憶しているが、いずれをとつても年式は古く、故障の連続で使い方、コツを知らねばとても乗りこなせるものではなかつた。部員も車に負けず劣らず、個性の強いやつが多勢集まつていたが、その中で、とりわけ車に、ぞつこんほれ込んでいる“車野郎”がいた。彼は車に関する知識の広さに加え、実際の整備作業、運転テクニックといずれをとつても群を抜いて優れたものを持つていた。彼は理工系大学対抗のフィギア、タイムラリーには欠かせない存在であつた。後に学校を中退し、レーシングチームの一員としてピットマンになつたが、数年後に不幸にも競技中の不慮の事故でなくなつたと聞いている。車を愛し、ひたむきに生きる彼の生き方に、少なからず影響を受けたのは、私だけではなかつたようである。

入学後1~2年楽しい大学生活が過ぎたが、片田舎の当学にも大学紛争の波が押し寄せてきた。しかし、自動車部で養つた親近感と、卒業研究生中に覚えた師の温もりが防波堤となり、私達には、よそ事のように感ぜられた。私は機械科に所属していたが、どちらかという劣等生に属しており、これといつて得意な学科もなかつたが、熱心な授業をなさる松井先生の個人的魅力にひきつけられて熱力学の授業に深い興味をおぼえた。さらに幸運なことに、希望どおりに卒研で、熱力学関係のテーマを選ぶこととなつた。師から授業以外の何かを、引き出

したいという願望を持ち、卒研の経過報告はすべて師の自宅で行うようにしていた。当時のことを振り返ると、師と御家族の心の暖かさに今更ながら感心させられると同時に、いかに私達の行動が無鉄砲であつたかを赤面するばかりである。

卒研のテーマは、楔平板の熱伝達に関して境界層内の速度分布と壁面上の温度分布を測定し、理論解との比較検討を行うというものであつた。卒研が開始と同時に、実験装置の製作にとりかかつた。装置といつても、塩化ビニールを継ぎ接ぎした至つて簡単なものであつたが、馴れぬ手つきでボール盤を操作したり、できあがつた楔平板を狭い風洞内に取りつけたりの悪戦苦闘の2か月であつた。製作当初は実験に使えるような装置ができるのかと多少不安であつたが、その気になれば何とかかつかうがつくものである。この装置で、実験を開始しデータを採ることができた。次の難関は得られたデータから速度分布、温度分布を求めるため、Runge-Kutta法で微分方程式を解くことであつた。そのためには電算機を使用するか、一生、学校に残つて手計算を行うかの二者択一であつた。そこで当時、導入されたばかりの電算機を使うことになつたが、電算機といつても、今では想像する事も難しい真空管式であつた。数千個の真空管の組み込まれた装置は、確率的にいづつても、その中のいくつかは故障するという厄介な代物であつた。プログラム言語も現在では、ほとんど使用されていないALGOLであつた。そういう電算機をなだめすかすように使い、結果が得られた時には何とも嬉しいものであつた。現在では私自身業務遂行上、電算機は欠かせないものになつているが、故障の発生等全く念頭に置かず莫大な演算の可能な電算機を身近にし隔世の観がある。

悪言軽薄多弁な私に較べ、師は多くを語られることはなかつたが、私の胸に昨日の事のように甦る言葉がある。「人真似ではなく独創性のある人間になること。だれもが創造する力をもつているが、既成概念にとらわれ、それを十分に発揮できないままである。そのためには、謙虚な姿勢で物事をみつめ、本質を見抜く観察眼を常日頃から養う努力を怠つてはならない。」私は師とのふれあいにより研究者の命題に対する謙虚で真摯な態度をかいまつたように思う。

学校を卒業して十余年、私は入社後も、よき同僚、よき先輩に生まれ今日まで停滞せず、前進のみの実感で業務に従事して来たが、いつまでも師の語られた「本質を見抜く眼を養う」という言葉を肝に銘じてゆくつもりである。

* (株)神戸製鋼所神戸製鉄所